



満開のサルスベリ

かざね
四万十の風音
 しんせん
森&川だより



四万十川のカヌー

もり が く いく
「森林の楽(学)育講座」開催

森林環境教育の更なる拡充を
高知県と愛媛県に分けて

当センターでは、昨年から、指導者の裾野の拡大を図ることを目的として、教職員の方々を対象にした「森林の楽(学)育講座」を開催しています。

今年のプログラムは、

【一日目】

- 森林環境教育の重要性
- 世界の森林と川(外部講師)
- 森林と地球温暖化防止・炭素現存量の測定
- 竹の話・竹のイカダづくり



イカダ初乗り体験



樹高、直径は？材積調査



先生もご満悦!



顕微鏡で炭の構造は?

【二日目】

- 炭の話・炭焼き体験
- 木は万能選手・木工クラフトについて実施。



慣れない木工に挑戦する先生方



見事に焼きあがった葉っぱの炭

座学では、熱心にメモをとったり、講師に次々と質問する場面も見受けられ、先生方の森林や環境問題への関心の高さを窺うことができました。実習では、自分たちで組んだイカダの四万十川試乗体験や、木工クラフトの時間は、大いに楽しんでいる様子でした。

実施後のアンケートでは、「学校で実践できるものがあった」「疑問に思っていたことが理解できた」等の感想があり、今後に繋がる講座となったようです。



傑作：炭になった折り鶴

なお、会場 実施日 参加者数は次のとおりです。

【高知県】

四万十市西土佐「四万十楽舎」

7月29日と30日

2日間で12名

【愛媛県】

松野町立松野東小学校

8月7日と8日

2日間で16名

また、これに先立ち

職員による講座参加要請

高知県西南地域の小・中学校へ

7月2日～4日にかけて、西南地域の教育委員会11箇所、小・中学校149校に職員が出向いて参加の要請を行いました。

当センターではこれからも機会あるごとにPRに努めたいと考えています。

シカも学習し賢い？

黒尊山国有林の自然再生地には、シカの食害を防ぐツリープロテクターを約300基設置しています。このうち、シカ防護柵の中にあるツリープロテクター内の樹木は、比較的順調に生育しています。

ところが、シカとの共生を目指して防護柵をしていない場所では、ツリープロテクターがシカの角で引き抜かれたり倒されたりで、中の樹木が食べられるケースがあり、

その都度、修理しています。シカの仕業に間違いなく、折角植栽した樹木が育つよう、これからもツリープロテクターから目が離せません。



シカの食害にあったヤマザクラ

後川中学校で森林環境教育

7月2日、四万十市立後川中学校1年生9名を対象に、「森林と地球温暖化」をテーマにした森林環境教育を実施しました。

導入では、「地球温暖化とは」「森林（樹木）は、温暖化防止にどのような役割を果たしているか」などについて説明。

次に、実際に樹木がどれだけのCO₂を蓄えているか計算するため、校庭に出てクロマツとクスノキの直径と樹高を測定しました。教室に戻った生徒たちは、職員の説明を受けながら計算式に当てはめてCO₂の重さを算出し、改めて実感が沸いたようでした。生徒からは「木がCO₂を蓄えていることが理解できました」と感想が述べられるなど、地球温暖化がテーマの「洞爺湖サミット」間近のタイムリーな森林環境教育となりました。



地球温暖化問題について学習する生徒たち

松野西小学校で木工教室 できた！世界に一つだけの作品

カブトムシ、クワガタムシ作成

7月11日、松野町立松野西小学校4年生を対象に森林環境学習を支援。今回は、学校から木工クラフトの希望があったことから、カブトムシとクワガタムシを作ることになりました。

作業を始める前に、この日使用するソメイヨシノとウツギの名前の由来や特徴と、道具の安全な使い方を説明。材料を選んだ子どもたちは、職員の指導を受けながら、早速ノコギリやクラフトナイフを手に作品作りに挑戦しました。手際よくパーツを作る子どもがいる一方、「うまく伐れませーん」と悪戦苦闘する子どもも。

約2時間半かけて、全員が完成、大満足の表情でした。

ふりかえりの時間には、「始めは難しかったけど、世界にひとつだけのカブトができてうれしい」「家でも作ってみたい」などの発表があり、思い出に残る木工体験となりました。



夢中で作業する子どもたち

四万十川で「イカダ」に乗ろう 西土佐中1年生

四万十市立西土佐中学校では、5年前から、「四万十川で竹のイカダに乗ろう」をテーマにした総合学習に取り組んでいます。今年も、1年生23名を対象に職員が指導にあたりました。

6月24日は、学校で竹の学習をした後、近くの竹林に移動して伐採に挑戦。危険が伴うことから、作業の注意点を十分に徹底

してから開始。約2時間後、全員が協力して長さ4m程のイカダ用の竹、約50本が揃いました。

7月15日は、学校でイカダを組み立てました。組み立てる前に、イカダに乗った時のケガ防止のために、木口や節をヤスリで削りましたが、想像以上に根気のいる作業で閉口気味の生徒も。次に、職員が実際に組んで見せながら、組み立ての要領を説明しました。いざ始めてみると、長いロープの扱いに苦労していましたが、予定どおり4艇のイカダが完成しました。



イカダを組み立てる生徒

7月24日は、待ちに待ったイカダ乗り体験の日。学校の近くを流れる

四万十川にイカダを浮かべ、4班に分かれて次々と試乗。始めは、竿のこぎ方やバランスの取り方に戸惑っていましたがすぐにコツを掴み、大歓声を上げながらイカダ乗りを楽しんでいました。そして、報道陣の取材には、「広々とした四万十川のイカダ乗りは楽しかった。学習を通して西土佐の自然や森林の大切さが分かった」と答えるなど、今回の一連の体験学習を通して、地域のシンボルである四万十川の豊かな水は、上流域にある森林の豊かさからきていることに気づいてもらえたようです。



完成したイカダで！はしゃいでジャンプ？

森林と海のコラボ！

水族館で親子木工教室を開催

7月19日、土佐清水市竜串にある高知県立足摺海洋館で親子木工教室を開催。

この教室は、高知県が、同館の活用促進を図ることを目的として19日から8月30日までの各土曜日に7回開催予定で、ふれあいセンターが初回の講師を依頼されました。当日は公募による親子5組15人が参加、職員もボランティアの方々と一緒になって木工クラフトの指導に当たりました。

最初に、ノコギリ、ナイフ、などの刃物の使い方を学んだ後、クワガタ、カブトムシ、クマの置物作りに挑戦。

子ども達は、ノコギリの扱いがうまくいかず両親に手伝ってもらう姿もチラホラ、それでも最後には立派な作品が出来上がりました。また、なかには海洋館に相応しい海の中をイメージした「壁掛け」を作った親子もいました。約2時間あまりの教室でしたが、普段「親子で何かをする」ことが少ない昨今、作品作りを通じて親子がふれあう体験の一助になったことでした。



汗だくで木工をする親子

四国の森林づくり子どもサミット 開催（四万十楽舎にて）

8月26、27日の両日、四万十市西土佐中半の四万十楽舎で、局指導普及課の「四国の森林づくり子どもサミット」を支援。

参加校は、「四国山の日賞」受賞校など8校、子どもたち35人が参加。当センターも炭素現存量の測定や、土壌生物などに

ついて学習プログラムを作成、それに基づき森林環境教育を実施しました。子どもたちは、山を守るために「植樹や下刈りをしたい」「動物のすみやすい環境をつくりたい」「森林の大切さをたくさんの人に伝えたい」などと決意していました。子どもたちにとっては、思い出に残る有意義な2日間であったと思います。



子どもたちの発表



土に生物はいるの？



土の構造について



1 m³の丸太見本



水生動物の捕獲

林野庁 四万十川森林環境保全ふれあいセンター

TEL0880-31-6030 / FAX0880-31-6031

〒787-1601 高知県四万十市西土佐江川崎2405番地